

## 「貧困について」

3年 Y.Y

世界には生活するお金がなく、貧困状態にいる人がいます。私は今まで生活するお金に関して不自由することもなく過ごしてきました。そのような人と直接関わる機会もなく、テレビや本を通して知っているだけの、どこか現実感のない知識でした。

今年の夏休み、私は家族と海外へ旅行に行きました。観光地を見たり買い物をしたりと昼間はとてもにぎやかな街でしたが、夜になると様子が少し変わりました。土産物屋もレストランも開いていて人が沢山いるのですが、路上の暗がりにごったりとした子供を抱えて物乞いをする女性がいました。日本では考えられない光景だったため、私は驚きましたが、どうすることもできませんでした。申し訳ないのですが、その親子のことを少し怖いようにも思いました。この他にも街で野良犬が何匹もうろうろしていたり、道に一つも信号がなかったりと日本との差に衝撃を受けました。恐らく私よりも年下だと思われる子供が道で物を売っていたこともありました。

貧困状態にいる子供は世界に数えきれないほどいます。そのような子供たちが頑張って稼いでいる以上の額のお金を普段私たちは簡単に使っていると思うと胸が痛みます。

お金を持っていればいるほど幸福だというわけではありません。貧乏でも幸せだという人はいるでしょうし、お金持ちでも自分のことが不幸だと思う人はいると思います。持っているお金の額で幸せかどうかが決められるわけではないからです。

私は貧しい人とお金を持っている人の差がこんなにも大きくなるのは、お金持ちがどんどんお金を貯め、貧しい人がずっと貧しいままだからだと思います。お金を持っている人が貧しい人のことを支援すれば経済格差もだんだんと小さくなっていくのではないのでしょうか。

しかし、お金を支援するだけでは貧困から人々を救うことはできません。そのような支援から自立しなければ自分でお金を稼いで安定した生活をすることはできないからです。例えば一日不自由することなく生活できるだけのお金を支援したとして、次の日には生活に困ってしまいます。このような生活が続くと支援に頼りっきりの生活になり、いつになっても自立して自分でお金を稼ぐことができず、貧困の根本的な解決にはつながりません。貧困を解決するには自立支援活動や子供たちの教育が必要なのです。

ここまで書いてきて、私の頭に浮かんだ聖書の言葉があります。それは「人にしてもらいたいと思うことは人にもしなさい」という言葉です。社会的に弱い立場の人にも偏見を持たずに自分がしてほしいと思うことを他人にもするのが重要だと思いました。また自分より弱い立場の人のために自分が行動することができる人を凄くいいと思い、私もそのような精神を見習いたいと思いました。

私は今まで社会的に弱い立場の人について自分から知ろうとも、考えようとも思いませんでした。しかし、今この瞬間も世界には貧困に苦しむ人がいます。そのような人のために私ができることは貧困状態にいる人たちの現状を知り、何ができるのか考えて行動することだと思います。自分で考えて行動しなければ何も変わりません。弱い立場の人たちのためになるようなことを率先してできるような人になりたいと今回の経験から思いました。